

セタシジミ資源の概況調査

井戸本 純一

◆背景・目的

漁獲量が減少しているセタシジミ資源の現状とその動向を把握し、適正な資源管理や効果的な栽培漁業推進の基礎資料とするため、琵琶湖一円の漁場で実際の漁船漁具による採集調査を毎年実施している。

◆成果の内容・特徴

- 毎年、産卵期である禁漁期間中に漁業者に依頼して主要7漁場を含む20水域で貝桁網を一定時間曳網し、単位面積あたりの漁獲サイズ（選別前の未漁獲サイズを含む）のセタシジミ採集数および体型組成を調査している。
- 2005年6月29日に調査した結果、主要7漁場における1 m²あたりのセタシジミ採集数は平均0.45個体/m²（1.1 g/m²）で、昨年度の平均1.87個体/m²（3.7 g/m²）よりも著しく減少した。
- 上記漁場において殻長20mm以上の個体が占める割合は、個体数で14.0%、重量で22.0%となり、昨年度の6.0%および12.5%より高くなったが、これは新規加入資源の減少を示している可能性が高い。

◆成果の活用・留意点

- 産卵の主力と考えられる殻長20mm以上の個体の生息密度が昨年度の3分の1に低下し、新規加入群の減少も示唆されることから、自然繁殖による資源の回復がさらに困難になったことが危惧される。
- 新規加入群の減少に関しては、放流種苗生産において単位親貝あたりの採卵量が減少している現象から、なんらかの環境変化の影響が懸念される。

表1 貝桁網による主要漁場における単位面積あたりのセタシジミ採集数

水域名 (主要7漁場)	1 m ² あたりの採集個体数	
	2004年5月調査	2005年6月調査
沖島南西	0.79 (0.01)	0.39 (0.03)
沖島西	2.60 (0.02)	0.75 (0.01)
沖島東	2.97 (0.21)	0.42 (0.07)
松原	1.30 (0.32)	0.10 (0.05)
磯	2.22 (0.02)	0.73 (0.04)
長浜	2.01 (0.08)	0.33 (0.03)
今西	1.18 (0.05)	0.41 (0.01)
平均	1.87 (0.10)	0.45 (0.03)

()内は殻長20mm以上の個体数